

戦前期日本の海軍省のポスター戦略

田島奈都子

本稿は戦前期の日本において、海軍省が依頼主となったプロパガンダ・ポスターの全容を明らかにし、その傾向と特色について考察することを目的としている。

論者の調査によって、同省は 1925～44 年の 20 年間に、67 種のポスターを製作したことが判明した。そしてそれらは志願兵募集、海軍記念日、絵画、航空関係、その他の 5 つに大別できた。

海軍省のポスターの特徴としては、大判の複製絵画的な「絵画」が製作され、一部が有料頒布されたことや、原画が公募されたり、フォトモンタージュ的な作品があったりしたことなどが、陸軍省のポスターとの違いとして挙げられる。なお、原画はほとんど現存していないものの、海洋画を得意とした人物によって担われることが多かった。

東京の本省で製作されたポスターは、各鎮守府あてに所管する地域分がまとめて送付され、そこからそこから管内のしかるべき機関へと配布された。